国語

出題の傾向

昨年度と同じく、1～3の大問３つからの出題となりました。1の現代文は例年通り、評論文から漢字・語句の意味・品詞の識別・内容把握などを出題しました。また、2では「新しい学力観に基づく」問題を、3の古文は、説話から語句の意味・内容把握などを、これも例年通り難解な言葉には語注や現代語訳で補助をして出題しました。各問題の配点は、現代文５０点、「新しい学力観に基づく」問題２５点、古文２５点となっています。では、以下に本年度の入試について特に正答率が低かったものを重点的に解説します。

2026 今年度の出題と解説

1の現代文は、「本をどう読むか　幸せになる読書術」（岸見一郎）からの出題でした。本文は「読書は著者の考えをそのままに受け入れるのではなく、自分のそれまで持っていた考えや生き方を振り返って吟味し、さらには、自分の生き方を見直す機会としてとらえる。すると生き方が変わり、幸せを感じることができる。」という内容でした。設問自体もこれまでと同じ傾向で出題していますので、しっかりと練習を積んだ受験生にとっては、スムーズに取り組める問題だったようです。

問１　漢字の問題

中学校までに学習した漢字の書き・読みから出題していますので、学校の授業などで漢字の学習をしっかりと積んでください。特に ㋑「矛盾」の正解率が低かったです。「矛」を「予」と勘違いしている解答も多かったです。日頃の勉強から、正確に読み書きをする学習を心がけてください。また、漢字を読み書きする力は、問題集などで鍛えることはもちろん大切ですが、読書や新聞、ネット配信のニュースなど、日常生活の中で活字を読むことで鍛えられる場面も非常に多いです。日頃から、意識的に言葉に関心を持ち、触れる機会を増やしてみてください。

問２　国文法の問題（品詞の識別）

本校で毎年必ず出題される問題だけに、対策を立てて勉強してほしいと思います。この問題は、対策をしてきた生徒とそうでない生徒の差が大きく表れます。多くの受験生が対策して臨んでくれていたので、正答率は高かったです。ただ ⓑ と ⓔ の２つは正答率が低かったです。ⓑ「もしも」は「薦められてばかりの人がいれば、」と動詞（用言）に呼応（先行する一定の語に応じて後ろに特定の語形が来ること）しています。よって解答は　オ　副詞　となります。このような特定の語形を導くものを「呼応の副詞」と言います。他には「決して～ない」「おそらく～だろう」などもこれに当たります。覚えておきましょう。ⓔ「ない」は「ぬ」という語に置き換えることができるので　ケ　助動詞となります。形容詞の「ない」と助動詞の「ない」の見分け方も本校の入試問題でよく出題されています。何度も練習を行い、対策を取りましょう。

問４　内容把握の問題（記述）

【解法の手順】

①　設問で問われていることを確認する。　「読書において大切なことは何だと述べていますか」を聞かれています。つまり「大切なこと＝何」を聞かれています。

②　設問で与えられている条件をよく見る。「生き方」という言葉を使って記述する必要があります。

③　本文から②に当たる内容を探す。本文の傍線部 ㋐ を含む一文には「大切なことは、～」とあるので、この部分をまとめて記述すること。特に記述する際は、「生き方を振り返り、～見直す」という表現に注目する必要がありました。

※注意点

・「どんな本を読んでいるかを見れば、どんな生き方をしているかがわかる」や「『どのように』本を読めばその人がどんな生き方をしてきたかわかる」など本文の前半の表現を抜き出す人もいましたが、「大切なこと」の内容として不適当です。

・記述する際は、設問の「大切なこと」を解答の中に書けているのか、という設問の指示に応じる意識を持つ訓練が「大切に」なります。

問８　内容把握の問題（抜き出し）

【解法の手順】

①　設問で問われていることを確認する。「『（読書は）対話』と書いたのにはわけがあります」その「理由」を聞かれています。

②　設問で与えられている条件をよく見る。説明した文章を読むと「読書とは、著者の意見を捉えるとともに、それに対して　　」とあるので、　　に入る内容は「著者の意見を捉える」とは反対の内容、つまり「自分でも考える必要がある」という内容が入ると考えます。

③　本文から②に当たる内容を探して読む。

傍線部⑥の直後に「自分で考え、時には著者に反論する」とあるので、この部分が　　に入る所だとわかります。

※注意点

・書き写す際に「著者」を「筆者」とする人もいました。抜き出し問題なので、減点となります。

2の問題は、「思考力・判断力・表現力を問う問題」です。この問題は複数の資料から設問に必要な情報を選び、適切な解答を作り出すという内容になっています。また、これからの学習で最も重要となる、論理的思考能力をはかる問題でもあります。特にこの問題は生徒の発言がヒントになりますので、空欄の前後の発言に注意しつつ、ヒントを探しましょう。

問１　論理的思考力の問題（記述）

【解法の手順】

①　Ｂ君の発言は「お米の値段が高くなった」理由を書く必要があります。

②　Ｂ君は「資料全部を見た上で発言をしています。」つまり「【資料１】～【資料５】全体を踏まえた内容にする」必要があります。

③　今回は「お米の値段が高くなった」理由なので、【資料１】～【資料３】を総合的に見て解答を記述します。

④　【資料１】「第一次産業（農業含む）の就業者の減少」、【資料２】「農業従事者の就業者数減少と高齢化」、【資料３】「農業従事者の後継者不足」。これら全てに共通することは「農業従事者の就業者数減少」となります。

※注意点

・資料の内容の一部だけを述べたと考えられる解答（「第一次産業～」「～高齢化」「～後継者不足」）などは減点となります。

問３　資料読み取りの問題（選択）

【解法の手順】

①　Ａ君の発言は「【資料２】を見ると～［　　］という、高齢化…」であるので【資料２】を見ます。

②　それぞれの選択肢を計算すると、イの選択肢が「五十歳未満（15～49歳）の若い世代が10%以下（1757×10%＝175.7）」の内容に合っています。

※ 注意点

・細かい計算を求められる場合があるため、正確に計算できる力を身に付けましょう。「なんとなく」で選ぶことは絶対にやめましょう！

問６　論理的思考力の問題（記述）

【解法の手順】

①　Ｃさんの「必ずしもそうとは言えない」とあるので、Ｂ君の発言を見る必要があります。

②　Ｂ君は「【資料５】～『スマート農業を導入しても実際は十分に活用できていない経営体が多い』～高齢者が多いため、新しい技術の習得が難しく時間もかかる」とありますので、この内容をもとに解答を考えます。

③　【資料５】を見ると、「データを活用した農業を行っている経営体数」とあり、ここからの問題点を考えると、「スマート農業を導入しているにもかかわらず、データ活用を行っていない経営体数の年齢層を調査した資料」、「高齢者が新しい技術を習得する時間（新しい技術を習得しづらいことが本当か）ということを調査した資料」という解答になります。

※ 注意点

・Ｂ君の内容を踏まえるため、「高齢者、年齢別、世代別」などの表現をする必要があります。

・直前の会話表現に着目しましょう。

3の「古文」の問題は、鎌倉時代に書かれた仏教説話の「沙石集」からの出題でした。前半の「歯を抜いた」という話は理解できていたように感じましたが、後半の「欲深いために大切なものを失った」という教訓的な内容が理解できなかった受験生も多かったようです。

対策としては現代語訳を参考にしつつ、「誰が」「どんなことをした」のかを丁寧に読む練習を行いましょう。まずは、現代語訳を載せておきます。

【　現代語訳　】

南都に、虫歯を抜く唐人がいた。またある在家の者でけちな男がおり、まずは利益に目が行き、何かにつけてもうけてやろうとばかり考え、実際、財産もあったのだが、虫歯を抜かせようと唐人のところへ出向いた。銭二文で虫歯一本と決まっていたが、「一文で抜いて下され」と言う。わずかな金額だから、ただで抜いてやってもよかったが、値切ろうとするその根性がしゃくに障り、「絶対に一文では抜かない」と答える。やや長らく言い争ううち、唐人がまったく歯を抜かないので、「では、三文で歯を二本、抜いて下され」と言い、虫歯でもないのに、健康な歯と一緒に二本抜かせて、三文を払った。自分では得をしたと思っただろうが、虫歯でない歯を失ったのは大損である。この話を申すまでもなく、たいへんに愚かなこと、ばかげた仕業である。

とはいえ、世の中の人は利益を願う気持ちが深く、何かにつけてもうけを考えるものだから、因果の道理も知らず、来世の苦報も考えず、ただ目の前のはかない利益に夢中になって、来世の菩提の財産を失い、仏法のご利益を手にしないことばかりが多い。

昔は、人間の心は素直で、欲望は少なく、善根をも積み、みんな、誠実な心をしていた。

問１　主語把握の問題（選択）

ⓒ のみ正答率が低かったです。「自分が得をしたと思った」人物を答える問題でした。「唐人は歯を抜く人、在家人は歯を抜かれる人」という人物関係がわかっていれば答えることができたと思います。設問の条件に「同じ記号を二度以上用いても良い」とあることを見逃した受験生が多かったように思えます。

問２　内容把握の問題（選択）

【解法の手順】

①　設問で問われていることを確認します。「少分の事なので、ただも取るべけれども」の意味を聞かれています。

②　「ただも取る」とあるので、「無料で（歯を）取る」という内容であることがわかります。

③　傍線部後半が「無料で取る」だから、前半の「少分」は「少しの金額」という意味になります。よって「少しの金額なので、無料で取る」という選択肢を選びます。

問４　内容把握の問題（記述）

【解法の手順】

①　設問で問われていることを確認します。「大きに愚かなる事」の具体的な内容を聞かれています。

②　「愚かなことは何か」を本文の中から考えると、「虫歯だけでなく、健康な歯まで抜いた」という内容だとわかります。

③　さらに「なぜ健康な歯まで抜いたのか」を考えると、「心には利分とこそ思ひけめども（＝得をしようと思った）」とあり、よって②と③の内容を含めて記述します。

※ 注意点

・「健康な歯」と「虫歯」の２本を抜いたので、「健康な歯を抜いた」「歯を抜いた」「虫歯と健康な歯を２本ずつ抜いた」などの記述は減点でした。

・「〇〇字以内」という問題は最低８割以上（できれば９割）の字数を書くようにしましょう。字数不足は大きな減点となります。

問５　内容把握の問題（抜き出し）

【解法の手順】

①　設問で問われていることを確認します。［ X ］に入る字を一字で答えます。

②　［ X ］の直前に「眼前の幻（＝目の前のはかない）」とあるので、唐人と在家人の話から「目の前のはかないこと」を考えると「得をしようと思って健康な歯まで取った」ということがわかります。

③　以上から本文の「［ X ］にふけりて、来世の財産を失った」＝「得をしようと思って、健康な歯まで取った」つまり「得をしようと思って」の内容が［ X ］に入ることがわかります。それを一字で答えると「利（利益）」となります。

対策とアドバイス

採点をしていて非常に残念だったのは「問題文をしっかり読んでいない人が多い」ということです。「〇〇という言葉を使って」や「記号は二度以上用いても良い」などの条件を読まずに失点をしている人が多かったように思います。また[1]の品詞の問題も正答率が低いです。普段から「問題文もしっかり読む」と意識することや、中学国文法の復習（本校の入試説明会では国文法の勉強ポイントについても説明をしています）が必要だと感じました。

また現代文の問題は、設問から、「何を答えれば良いのか」ということを読み取った上で、本文をじっくり読めば解答が導けるようになっています。練習の際には、たまたま正解した、間違ったということで一喜一憂するのではなく、自分でしっかりと根拠を持って解答をし、解答に至る道筋が本当に合っていたのか、しっかりと解説を読んで理解しましょう。時間がかかるかもしれませんが、そうすることで本当の実力がついてきます。また、日頃から読書の機会を持つことで、語彙力を増やし、文のつながりや構造を理解する力＝「読解力」を養うように心がけましょう。来年度入試も、「漢字・口語文法（品詞の識別）・語句の意味」など基本的な言葉の知識を中心に出題する予定です。本校独自の問題については、必ず得点できるように対策を立てることが大切ですが、全体的には、中学校の授業で学習したことを正確に身に付けることを心掛け、問題を一つでも多く解くようにしてください。また、国語の学習では日頃から常に文章（活字）に触れることが一番です。読書を通じてしっかりとした読解力をつけ、問題演習を通して、本文の中から答えを探し出す訓練を積んでください。また、学校によっては古文への取り組みが少ない学校もあるかも知れませんが、本校の古文の問題は、現代語訳での補助も多く、主に「文脈を判断する」問題になっていますので、日頃から古文に触れておくだけでも充分な対策になります。市販の問題集などを使って、文中の分かる言葉をつなげて、話の大筋をつかまえる練習を積んでおくと良いでしょう。思考力・判断力・表現力の問題については、今年と同様に、それほど特異な出題はしませんが、やはり何も対策をせずに本番を迎えるのは不安だと思います。学校などでも同じような問題に取り組む機会があると思いますし、近年では全国の公立高校で同様の問題が多く出題されています。学校の授業での演習の機会を大切にし、公立高校の過去問題を調べたりして、地道に練習を重ねてほしいと思います。また、入試過去問解説会（12月）では、実際の問題を使用した『高得点を取るポイント』の解説を予定しています。本校で実際の問題に触れてみるのも貴重な経験になりますので、是非足を運んでください。最後に、国語力は、全ての教科の基礎と言われています。国語の力が伸びれば、他の教科にも必ず良い影響をもたらすので、しっかり勉強を頑張ってください。